レインボープランの現状と今後の展望

－ 次世代へつなぐために －

東北公益文科大学　鈴木瞭太

□推　薦　　指導教員　呉尚浩

本論文を執筆した鈴木瞭太さんは、生まれ育った長井市の「レインボープラン」について、卒業論文において、その現状と課題、さらには多地域の事例との比較によるその特色についてまとめた。

レインボープランとは、全国に先駆けて、農と食の地域循環モデルの構築に取り組み、アジアを中心に世界的に有名になった山形県の誇るべき公益的地域づくりの事例である。

私たちの研究室でも、以前は幾度となく通い、その後の進展に強い関心を抱いてきた。しかしながら、最近においては、レインボープランの現状についての発信や、それについて取り扱った論文はほとんどなく、本論文はその意味で大変有意義な論文であるといえる。

本論文では、現状の課題を（１）コンポストセンターの老朽化、（２）生ゴミ回収量の減少、（３）地域向け供給の維持とまとめている。

また、本論文では、多地域との比較を行っているが、レインボープランの特徴を「参加者の環の広さ」と位置づけ、その視点からの提言を行っている。なかでも、レインボープランが世代交代をする中で、その理念の継承の課題や、新しい長井市の状況の変化に応じて若年層への普及啓発の課題が明らかになってきた。

鈴木さんは、小学校４年生の時に、レインボープランを見学して、興味を持ったという。そして、大学に入り、その重要性に改めて気づき論文執筆にいたった。このように、台所と農地の物質的循環だけではなく、世代を超えての時間的循環の中で継承されていくことを大変よろこんでいる。

このようなすばらしい取り組みの中をしている地域で育った鈴木瞭太さんの人生の中で、その経験が活かされるように、今後の活躍を期待してやまない。